

序章

本学は、創立110年を越えて建学の精神「実学尊重」及び教育・研究理念「技術は人なり」を掲げ、「技術で社会に貢献する人材の育成」を使命とし、現在では5学部15学科、5研究科25専攻を擁する大学となった。それぞれの教育組織が大学の理念・目的に基づいた教育目標及び各種方針を実現すべく、2014（平成26）年度から10年間を目途とする「学校法人東京電機大学中長期計画～TDU Vision 2023」を策定し、諸施策を実行してきた。そして、本学の教育研究の質を保証するために「東京電機大学自己評価等に関する大綱」に基づき、全学における内部質保証の推進に責任を負う組織「自己評価総合委員会」を中心に、恒常的な自己点検・評価活動を推進してきた。

本報告書は、2022（令和4）年度の自己点検・評価の結果を報告書としてまとめたものである。

本学は、2016（平成28）年度に大学基準協会による第二期機関別認証評価を受審し、2017（平成29）年度から2023（令和5）年度までの7年間の適合評価を受けた。第二期の評価では、長所として特筆すべき事項として2件、努力課題として2件の提言があった。特に努力課題として指摘を受けた2件については、「自己評価総合委員会」において対応計画を検討し、大学校務執行の推進・管理を行う組織「大学評議会」より当該部局に対し改善指示を行うことで、適切な状況に改善を図った。また、2020（令和2）年には、提言事項に対する改善報告書を同協会に提出し、改善の成果が確認できる旨の文書を受領した。

本学では、第三期機関別認証評価受審の前より「自己評価総合委員会」を内部質保証の推進組織とし、自己点検・評価を実施してきた。しかし、全学的に教育研究の方針を定め、それに基づく諸活動の検証、検証結果を踏まえた改善・改革といった一連のプロセスを実行する組織体制が明確に定まっていない状態であった。この問題を解決するために、2020（令和2）年に「自己評価総合委員会」の構成員にインスティテューショナルリサーチセンター長を追加して客観的なデータを使用した点検・評価体制を可能にし、2021（令和3）年に「東京電機大学内部質保証の目的及び方針」を制定し、学長をはじめとした執行部、教職員が共通認識をもって自己点検・評価のみならず、改善・向上を含めたプロセスを実行できるよう改善を図った。各学部・研究科、部局ごとの自己点検・評価等の取り組みを前提としつつ、全学的なマネジメントにより重きを置いた体制を明確にしたことで、内部質保証の更なる実質化を図っている。

今後も、内部質保証の取り組みを通じて明らかになった長所・特色を更に伸ばさせるとともに、認識した課題・問題点については、改善に向けて計画的に対応していくことで、大学の掲げる教育・研究理念「技術は人なり」を念頭に、いかなる社会環境の変化によっても技術で社会に貢献できる人材を輩出し続けることを目指す。